中学校第２学年　保健体育科学習指導案

Aモデル

１　単元名　保健編４章　健康な生活と疾病の予防②　３．がんの予防

２　本時のねらい

　　「がん」の発生の仕組とその要因、現状、進行の仕方、進行度と生存率の関係等について学ぶことを通して、「がん」は生涯のうち二人に一人がかかると推計されること、生活習慣と関係が深いこと、検診による早期発見が重要であることについて理解し、望ましい生活習慣を身に付けようとしたり、がん検診を受診しようとしたりする意欲をもつことができる。（知識・技能）

３　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程 | 学習内容　「・」予想される生徒の思考 | ◇教師の指導　※留意事項 |
| 導入 | １　課題づくり  　事前アンケート結果を見て、感じたことを交流する。  ・怖い病気だと思っているのは私だけではないな。  ・「がん」になったからといって、必ず命が絶たれるわけではないんだ。  ・怖いからこそ詳しく知っておきたいな。   |  | | --- | | 「がん」について正しく理解し、がんを予防するためにできることを考えよう。 | | ◇グラフ化したアンケート結果を具体的な数値で示すことで、がんに対する意識を共有できるようにする。  ◇著名人のがん経験者のスライドを見ることで、「詳しく知りたい」「生存するためにできることがあれば知りたい」等、目的をもって主体的に追究できるようにする。 |
| 展開 | ２　調べる（追究する）  　・各資料から、がんについての理解を深める。  **資料１：「がん」の発生の仕方とその要因**   |  | | --- | | ①「がん」とは正常な細胞の遺伝子が傷つき、異常な細胞である「がん細胞」が増殖する疾病である。  ②「がん」は、原因の分かっているものとして、「細菌・ウイルス」「生活習慣」「遺伝的要因」の３つがある。 |   ・「がん」は細胞分裂の変異によるものだから、体のいたるところにできるんだな。  ・「がん」は私や身近な人もかかる可能性があるんだな。  **資料２日本におけるがんの現状**   |  | | --- | | 1. 「がん」になる人は２人に１人であること、平均寿命   が長くなるにつれて「がん」による死亡数は年々増加し、３人に１人が「がん」でなくなっている。   1. 日本人は「生活習慣」が原因で「がん」になっている人の割合が多い。 |   **資料３　がん検診の有効性**   |  | | --- | | ①「がん」は発生から自覚症状が出るまでに10～20年かかることもある。  ②「がん」は早期発見によって、種類によっては95％の人が治る可能性がある。 |   ・検診を受け、早めに発見することが大切なんだ。  ３　「がん」について説明する  ・「がん」について１分間で説明できるように、ホワイトボードにまとめ、説明する。  ４　「がん」経験者の思いを知る  ・「がん」になると、自分も家族もすごく大変だ。  ・「がん」にならないためには、生活習慣を見直さないといけないな。  ・がん検診を受けることが大切なんだ。 | ◇視覚的に分かりやすいように、スライドを用いて説明する。  ※要因の一つである「細菌・ウイルス」とは、インフルエンザや新型コロナ等のウイルス感染とは異なることを伝える。  ※「小児がん」など、生活習慣とは関連のないものや、原因が不明なものもあるため、誤解がないようにする。  ◇加齢による細胞分裂回数の増加や修復・排除などの細胞を正常に保つ働きの低下が、「がん」の罹患数や死亡数の増加につながっていることを押さえる。  ◇自覚症状が出てから「がん」は加速度的に大きくなるため、定期的な検診による早期発見や、早期の治療が重要であることを押さえる。  ◇治療には「手術療法」「放射線療法」「抗がん剤などの化学療法」の３つがあることを押さえる。 |
| まとめ | ５　振り返り（学びをつなげる）  ・「がん」は細胞の異常増殖によって、生涯のうち二人に一人がかかる可能性があり、予防には、適切な生活習慣やがん検診などが効果的だと分かった。  ・具体的に、私や家族が「がん」になりにくくするためにできることは何かな？もっと詳しく知りたい。  ・早期発見で95％の人が治る可能性があるのに、受診率が50％以下なのはなぜ？私の家族は健康診断やがん検診を受けているのかな？ | ◇家庭生活を見つめ、「がんの予防」についてさらに詳しく知りたくなったことや疑問に思ったことをまとめ、次時へ意識をつなぐ。   |  | | --- | | 【評価規準】知識・技能  「がん」の現状や、がんの発生原因、経過などについて理解している。 | |